

企業×学生が協働で、企業における環境に関する取組の新たな展開を大研究！
あいちの「人づくり」プロジェクトが、2015年、ついに始動しました！

かがやけ★ あいちサスティナ研究所



所長≫
愛知県知事
大村 秀章

かがやけ☆あいちサスティナ研究所とは

愛知県が、近い将来、地域の担い手となる学生がグローバルな視点を持って、継続的にエコアクションを実施することができるよう立ち上げました。
研究員である学生が、パートナー企業から提示された事業活動等における環境面での取組に関する課題に対し、企業の現場での調査や企業の担当者とのディスカッションを通して、解決のためのプランを企業側に提案するとともにその成果を広くPRします。

2015年度パートナー企業



課題提示

解決策提案



所長≫ 大村知事

顧問≫ 中日新聞論説委員 飯尾歩

研究員≫ 学生



県内13大学から20名が参加
5チームに分かれて研究

広く情報を発信！



イベント・
大学での
発表

製造業



製造業

ソニーイーエムシーエス
株式会社

エネルギー業



金融業



三井住友銀行

小売業



ユニーグループ

公式Facebook



www.facebook.com/kagayaken/
研究成果の詳細はこちら

課題 「アイシン環境学習プログラム」をさらに効果的にするための方策を検討せよ。

同プログラムはNPO法人アスクネットと協働で行われており、本年で十年目を迎える。更に効果的なものとするため、児童の受講前後での学習効果を検証する評価方法及び身に付けたエコ活動を継続的に実践する方法を検討した。

解決策》

解決策の方向性（考え方）

アイシン精機に教えられた現地現認の原則に基づき、現場の教員、児童たち、初等キャリア教育の専門家にヒアリングを行った。その生の声を活かし、現場で実行しやすい解決策を具体的に考えた。

現地現認から導き出した 児童ヒアリング/ 愛・シンフォニーコース

概要

児童の学習効果を検証するうえで、初等キャリア教育の専門家にアドバイスを聞き、児童の本音に近づく必要があると分かった。そのため、教員が対面して児童から話を聞き、記述が苦手な子どもからも本音を聞き出せるヒアリングを提案。児童が継続的にエコ活動を実践するためには、プログラム実施校の教員からのヒアリングにより、教員のサポートが必要不可欠であることが分かった。そのため、教員の環境意識を育む教員向け研修「愛・シンフォニーコース」を提案。

具体的な展開案

児童ヒアリング

ヒアリングにより、アンケート等の児童の記述力の差によって捉えきれない本音に近づく。児童自身も話すことで反復学習となり理解が深まるほか、自分の言葉で発信することで、学習がより強く印象付けされる。さらに、記述力の差により今まで埋もれてしまっていた児童の成長を捉えることができる。



愛・シンフォニーコース

児童のエコ活動の実践を支えていく教員向けの研修を実施。プログラムで学んだことを他の教科や学習へつなげていくために実践事例を紹介するほか、市民講師を学校に派遣して環境問題の深刻さを教員にも伝えることで、環境問題に取り組む児童と想いを共有し、より親身になって児童の行動をサポートしてもらう。



持続可能な社会に向けて

行政、企業、学生、市民、多くの人々がつながることで、それぞれの特性を最大限に活かすことができる、この連携・協働を継続することで、経験と気づきを蓄積していく。その積み重ねこそが、持続可能な社会への近道。そのため、私たち研究員のつながりをさらに強め、これからも継続的に関わっていきたい。

チーム・AISIN GROUP

★愛知淑徳大学 内海媛海 / 金城学院大学 桂川優奈
中部大学 坂口雅人 / 愛知教育大学 三須隼人 (★=リーダー)

ファシリテーター

特定非営利法人アスクネット
代表理事 キャリア教育コーディネーター 白上昌子
事務局 キャリア教育コーディネーター 後藤恵理香

研究成果詳細

公式Facebook



www.facebook.com/kagayaken/





課題

ソニーの森の様々な環境活動を
広くPRし、環境配慮企業としての
イメージアップ戦略を検討せよ。

ソニーの森では、生物多様性保全の活動を行っている。その活動を社内のものだけでなく、学生、地域を巻き込み活性化を図る。そしてソニー全社の環境活動がつながり、広がる手法を検討した。

解決策》

森の案内人／ほっほ一大作戦／ どんぐりプロジェクト、 そしてOne Sonyへ

解決策の方向性（考え方）

- ①知る。ソニーの森の活動を社員に知ってもらい、ソニーの森ってすごい、一緒に活動したい！という気持ちの共有。
- ②広める。ソニーが開拓者となり環境活動を行う。
- ③つなげる。ソニーの森の活動を通し、人と人をつなげる。

概要

ソニーの森とは、「緑豊かな公園工場」として、1972年幸田サイト設立からある社員憩いの森。現在、ソニーの森では2つの環境活動が行われている。「フクロウの棲む森づくり」では、一部社員が自らソニーの森の保全活動を行い、フクロウの巣箱設置等の取組を実施している。「どんぐりの苗木づくり」では、幸田町の小学校と共にどんぐりの苗木の育成と植樹活動を行っている。

具体的な展開案

森の案内人

社員がソニーの森を利用する仕組みを検討。新入社員研修として、ソニーの森での「森の案内人」育成プロジェクトを提案。



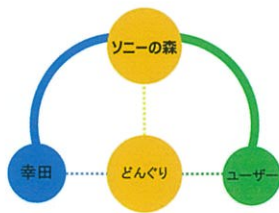
ほっほ一大作戦

学生と連携して実施する「ソニーの森マップ」づくりを提案。このマップではソニーの森にフクロウを呼ぶストーリーが描いてある。



どんぐりプロジェクト

幸田町、ソニーの森、ユーザーをどんぐりでつなぐ。幸田町役場と連携したどんぐりの植樹や製品パッケージをポットとして再利用することを提案。



One Sony

幸田サイトの環境活動の広がりをきっかけにして、日本中の各サイトでも活動が展開され、環境活動は多くの人に広がる。ソニー全社をあげての活動がきっかけで、持続可能な社会へ。



持続可能な社会に向けて

企業の努力に学生、地域がつながることで持続可能な社会をつくり出すことができる。
企業・学生・地域をつなげるきっかけになるのが、私たちにとってソニーの森。
今日からあなたもソニーの森の活動に私たちと一緒に参加してみませんか。

チーム・ソニーイーエムシーエス

愛知淑徳大学 植松明里 / 日本福祉大学 白井朱
★大同大学 中山智貴 / 南山大学 濱野宏樹 (★=リーダー)

ファシリテーター

愛知淑徳大学 コミュニティ・コラボレーションセンター (CCC)
秋田有加里

研究成果詳細

公式Facebook



www.facebook.com/kagayaken/



課題

総合エネルギー事業者として
最適な環境活動について
検討せよ。

総合エネルギー事業者として消費者に選ばれ続けるための、ユニークな発想から生まれる環境活動を提案するべく、消費者・東邦ガスそして持続可能な社会につながる新しいアイデアを検討した。

解決策》

解決策の方向性(考え方)

東邦ガスは多くの環境活動を行っているが、十分知られていない。また、県民の中で環境活動を実践している人は一部にとどまる。そこで、東邦ガス・県民・環境活動をつなげる団体「エコティナ」を提案。

環境活動の輪を広げる「エコティナ」
エココミュニティ「エコティナ」
= (エコロジー + サステイナブル)

概要

「エコティナ」は東邦ガスの環境活動を今後も持続、そして発展させていく活動団体。東邦ガスの環境活動への参加者が企画・運営を実施するなど、仲間とともに主体的に活動していく仕組みを構築。さらに、SNSを用いて情報を発信していくことで、エコティナ以外の多くの人にも東邦ガスの環境活動を知ってもらうシステムを提案。

具体的な展開案

エコティなクラブ

環境活動の経験者・東邦ガスファンの方が対象。環境活動に主体的にかかわり、エコマスターにレベルアップ。



東邦ガスの既存ファン

エコティなサークル

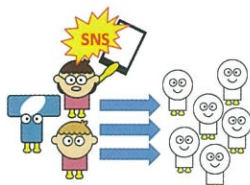
環境活動の初心者・大学生が対象。仲間と一緒に環境活動に取り組むことで、楽しみながら環境活動を実践。



環境活動初心者な大学生

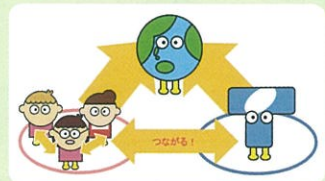
広がる「発信力」

エコティなサークルの学生を中心に、SNSを活用して東邦ガスの取り組みを拡散。「つながり」を広げていく。



生まれる「つながり」

エコティナにより東邦ガス・県民・環境活動がつながる。東邦ガスを起点に、みんなで作る環境活動へと発展。



持続可能な社会の実現には、県民一人ひとりが環境問題に当事者意識を持つこと、そして縦横のつながりを広げながら取り組むことが必要不可欠。
夏休みの宿題のように後回しにせず、今から無理なくコツコツ取り組もう！

チーム・東邦ガス

名古屋市立大学 飯田真帆 / 名古屋工業大学 田中仁規

★名古屋市立大学 野村佳代 / 名古屋工業大学 水野優子

(★=リーダー)

ファシリテーター

ビオトープネットワーク中部 会長
長谷川明子

研究成果詳細

公式Facebook



www.facebook.com/kagayaken/



課題 環境配慮企業を後押しする 新たな金融サービスを 検討せよ。

モノづくりの盛んな愛知県の中小企業を対象にして、環境配慮商品をつくっている企業を後押しするため、同企業がモノづくりを継続・促進できる金融サービスを検討した。

解決策》

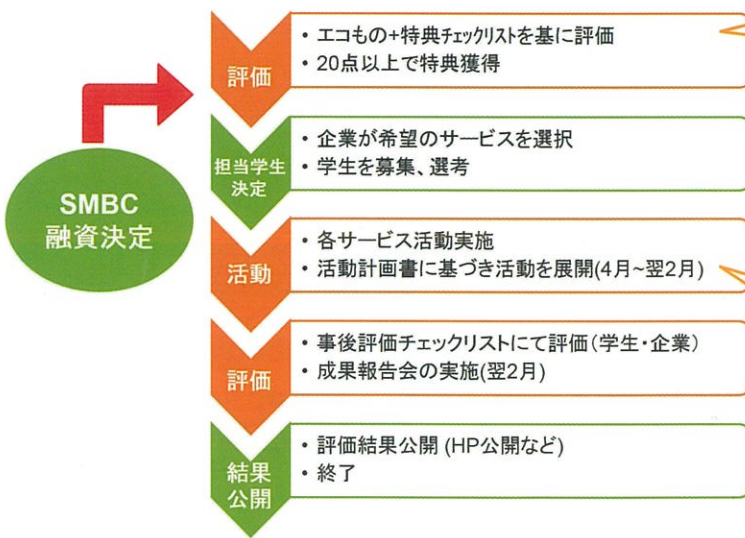
金融サービスへの新たな付加価値 融資特典『あいちエコもの+』

概要

「あいちエコもの+」は、三井住友銀行が行っている既存の融資プログラムにプラスされている特典である。対象は地域資源を活かした環境配慮商品を製造する愛知県の中小企業。三井住友銀行の融資を受けており、かつチーム・三井住友銀行が独自に作成した「特典チェックリスト」をクリアすることで、「あいち」の学生によるPRサービス、販促サービス等の特典を獲得。

具体的な展開案

「あいちエコもの+」の流れ



解決策の方向性(考え方)

当初から「学生が関わる」ことがキーワードであった。環境配慮商品をつくる企業にヒアリングを行うことで、具体的にどう関われるのか、また学生とだけではなく、企業が銀行や地域と広くつながっていきける提案を考えた。

「エコもの+」事後評価チェックリスト

項目	達成状況
環境配慮面・環境意識	✓
・環境に関する品質マネジメント指標を取締した。(具体名:)	
・環境配慮型製品を作った。(商品名:) (取得商標、指標:)	
・社内で定期的(年1回以上)に環境問題に関連したセミナーを実施するようになった。(実施イベント名:)	
・社内のゴミを種類以上分別するようになった。(例: 燃えるゴミ、燃えないゴミ、ビン・カン、ペットボトル、古紙)	
・会社として地域の清掃活動に参加するようになった。	
・環境配慮活動に積極的な社員を社内で評価するようになった。(例: ボーナスなど)	
・半数以上の社員がマイカップ、マイ箸など、いずれか1つでもエコグッズを使っている。	
・社員自ら発案した環境配慮活動、製品を開発した。	

「あいち」の学生が環境配慮企業を応援!

動画作成・PRサービス	商品のPR動画作成、配信
販促サービス	大学祭などのイベントでの販売
モニターサービス	自社商品を使用した感想などをブログで紹介
デザインサービス	新たなデザインの商品を製作

銀行・学生・企業が協働し、三方にメリットがある「あいちエコもの+」。

そんな「あいちエコもの+」は、環境配慮商品の普及、地域での資源の循環、地域や学生(次世代)とのつながりを生み出す。環境配慮商品をつくっている地元の中小企業を応援することで、持続可能な社会を実現しよう。

チーム・三井住友銀行

南山大学 相羽玲奈 / 愛知県立大学 佐藤遥
中部大学 縦山貴斗 / ★南山大学 山田侑美羽(★=リーダー)

ファシリテーター

環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー
新海洋子

研究成果詳細

公式Facebook



www.facebook.com/kagayaken/



課題

環境配慮型プライベート商品
「eco!on」の
PR方法を検討せよ。

プライベートブランドの中で、特に環境に配慮した商品を「eco!on（エコオン）」として販売している。「eco!on」が選ばれ続けることが持続可能な社会の実現につながると考え、どのようにPRすれば消費者に買っていただけるか、学生の視点で解決策を検討した。

解決策》

「体験の共有」をテーマにした
消費者・従業員・大学生の参加型コンペ

概要

知ってもらう“きっかけ”として、eco!onのキャッチコピーやパッケージデザインのコンペを行い、従業員・大学生からのアイデアを募集する。店頭やSNSでコンペの投票を行い、消費者の認知・興味につなげる。次に小型テレビによる店頭ライブを行い、大学生が作成したPR映像でより興味を持ってもらい、最終的な行動として購入へとつなげる。

具体的な展開案

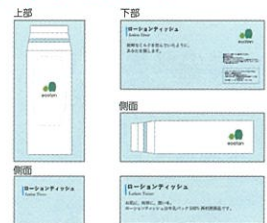
従業員キャッチコピーコンペ

従業員のeco!onの認知度を向上させ、商品に愛着を持ってもらう“きっかけ”を提供する。そこから広がる口コミの影響も期待する。



大学生パッケージデザインコンペ

愛知県内の大学・専門学校からSNSを使いアイデアを募集する。将来、消費者となる大学生がeco!onを知る“きっかけ”にもなる。



コンペの投票

最終ジャッジとして消費者に店頭・SNSで投票してもらう。投票により商品づくりに参加してもらうことでeco!onに興味・愛着をもってもらう。



小型テレビによる店頭ライブ

インパクトを与えるために映像・音によるPRを行う。eco!onのCMやコンペの過程、従業員や消費者の声などを入れた映像を大学生が作成する。



持続可能な社会に向けて

“きっかけ”を与えることでeco!onを知ってもらい、コンペや店頭ライブを通してどのように環境にやさしいのかを発信し、多くの消費者に選ばれ続けることでeco!onが広がる。eco!onを今よりもっと広げることで、持続可能な社会の実現につなげよう。

チーム・ユニー

★名古屋学院大学 阿部汐里 / 名古屋学芸大学 植森歩仁
中部大学 清水佳奈 / 中京大学 祖父江由梨 (★=リーダー)

ファシリテーター

暮らしの対話研究所
木村まい

研究成果詳細

公式Facebook



www.facebook.com/kagayaken/

